新宮山彦ぐるーぷ第１９４９回

小池の宿跡～黒谷の頭(点名:黒谷峠 1333.7mⅢ)の踏査

◇実施日；２０１７年１０月０９日(月・祝日) 小雨後曇一時晴
◇参加者；川島　功、沖﨑吉信、児嶋道夫、濱野兼吉、畑林清子、
大江加予子、生熊千満子、山川治雄、竹中卓治、
高階美根子、山口泰宏、瀧本昭太郎、島本真澄、
斉藤和美、大門健一、菅原　洋(高槻市)。　１６名。

小池の宿跡への道標は、平成１３年８月に設置され、会行事として平成２１年、平成２２年に訪れてテープ目印等追加して来たが、最近ネット上に朽ちた道標が掲載されている事から、道標再設置と会行事として初踏査となる黒谷の頭への登頂を企画した。

新宮組は、午前６時３０分沖﨑さん宅を川島、沖﨑の車に分乗し出発。奈良県南部の雨確率は２０～３０％とのことである。

池原公園で尾鷲組の高階、竹中さん、熊野の山川さん、西宮市からの大門さんと合流し前鬼に向かう。和歌山組３名、山口さん、今回初参加の菅原　洋さんは、７月の楊子ノ宿付近・倒伏石柱道標を復元し釈迦ヶ岳に戻った際に、勤行されておられた行者さんで声を掛けたら「金剛山で修行している、継の窟の場所が判ったが、小池の宿跡が判からずに行きたい」と話した方で、ＨＰを見て急遽参加下さった真言宗醍醐派「金剛山・転法輪寺・司講」所属で修行されている行者。

前鬼・小仲坊に到着すると霧雨が降っていてカッパを着る。沖﨑さんからの行動指示で、雨の後であり急峻な登り下りが続くので、特に滑らないように注意がなされる。

行者堂にて菅原導師による勤行を行って、小中坊宿坊棟の裏手から渡渉して、五鬼助さんの水源の水道パイプに沿って登る。途中の杉の切り株に「スギヒラタケ」が生え、下界はまだ残暑が厳しいが前鬼郷はもう晩秋の気配である。

前鬼山小仲坊・行者堂で菅原導師にて勤行

本日の予定説明など

小仲坊裏手の登山口

徒渉

取水口上の岩の目印

水源近くから谷の右岸へ渡って尾根への急坂を登る。昨夜来の雨でぬかるんで足元がゆるく、慎重に周りの木々や岩を掴みながら滑らないように登る。尾根道に入ると「センボンヤリ」の可愛い小さな花が咲き、栂の巨木があちこちに現れる。山川さんより栂と樅の違いについて説明を受ける。栂の葉は優しく樅の葉は触れると痛いので簡単に見分けることが出来るとのこと。

登り始めて約１時間１０分。霧も晴れて展望が開け大日岳（１５６８ｍ）、蘇莫岳（１５２１ｍ）、千手岳（１３５７ｍ）が望める。石楠花岳から派生尾根のＰ１１７０ｍへの途中、Ｌ字状の

ヒメシャラや橙色のきれいなキノコを見つけ「トンビマイタケ」ではと採るが「マスタケ」というキノコで「食べない方が良い」とのことであった。

以前はＰ１１７０ｍの手前で左斜面の捲き道を辿ったが、崩落しておりＰ１１７０ｍへ直登する。

山頂は広く獣のヌタ場が在り、新たに小仲坊・小池の宿への道標を設置した。

Ｌ字状(鹿?)ヒメシャラ　　登って来た尾根Ｐ１１７０ｍに道標設置

一息入れいよいよ「小池の宿」を目指す。尾根を下ると捲き道合流地点に「ネットでの朽ちた道標」が木の根元に置かれている。

捲き道分岐の朽ちた道標　小池の宿跡分岐に道標再設置　Ｖ字支谷を下る

少し下った尾根道の鞍部に玉岡さんの「小池の宿址」の標識を見つけ、新しい道標を再設置する。

ここから急峻なＶ字谷へ下り、Ｖ字の涸れ谷は岩が露出して滑らないように慎重に下る。ここが池郷川の源流部。

徒渉地点の石積み道　　ロープを張り本谷徒渉　徒渉の目印岩(小屋跡?)

下りきった所に本谷の勢いのよい流れがあり、対岸には徒渉箇所を示す標識が立っていて、先頭の山川さんは、渡渉地点に石を置き更にロープを張って安全を確保する。こちらの谷沿にも石垣が残っていて、ここが小池の宿であったと間違えた人もいるようである。

小池の宿跡基壇付近清掃と道標再設置

右岸沿いに下り数分で小さな支谷を渡ると、小池の宿跡に到着する。なだらかな平地で、石の祭壇らしき跡があり、水も豊富で修行の場としてはいい環境である。大きな山桜もかなり生えていて、花見に再度訪れたい地である。

祭壇の周辺の苔や散乱した小枝や陶器の破片を除去し、児嶋さんお手製の標識を立てる。この標識には西行法師がここで詠んだ「いかにして梢のひまをもとめえてこいけに今宵月のすむらむ」という和歌が書かれている。

ここは真言宗の拠点である。全員で線香をあげ、菅原さんの勤行に唱和する。彼は持参の修多羅(したら)をお供えされた。

線香をあげ菅原導師の勤行　記念撮影

勤行の印・修多羅

小池の宿跡(第３１靡)の位置は、北緯34度05分07秒・東経135度54分57秒の位置にある。

瀧本さんが、小池の宿跡で拾ったビール瓶を持帰り調べると大日本麦酒㈱(1906～1946)製のビール瓶であり、戦前に飲酒したものである事が判った。小池の宿は、森沢義信著「大峯奥駈道７５靡」の中に、江戸末期には活動を停止していたとの事から、戦前に植林等の小屋が在り生活していたものと推測される。

小池の宿をあとにして分岐尾根に戻り、踏査された経験のある山川さんの奨めで展望の良いＰ１１５２ｍで昼食。

分岐尾根へ戻る登り

P1152mで昼食

P1152mからの小仲坊

昼食後、出発に先立ち瀧本・山川さんが、熊除けの紙雷管や爆竹を鳴らし、こちらの存在を知らせる。黒谷の頭(熊谷峠)を目指して出発。

尾根道の特異な根上がりの木を過ぎると、ヒメシャラが増えてくる。この木にはこの周辺の環境が良いのであろう。かつて十郎山(１２６９ｍ)でもこの木の群落を見た。遠くで発情期を迎えた牡鹿の雌を呼ぶ声が聞こえる。アップダウンが少しずつ身体に利いてきて、ついて行くのがしんどく先頭とは距離が離れだす。約１時間で点名；黒谷峠(１３３３．７ｍ)の山頂に到着。

熊除けの爆竹破裂

特異な根上がり木

ヒメシャラ尾根を登る

黒谷の頭への途中小休止

黒谷の頭に標識設置

狭い三角点下で小休止

山頂は非常に狭く、雑木が茂り全員が山頂に立つことが出来ない。山頂に当ぐるーぷの標識を設置する。山頂にはサークルＫの真新しい標識があり、又、湯川一郎君が前日単独登頂している。

ここで記念写真も撮れず。山頂より少し下ると休場ノ尾の尾根道の雑木林の中を突破して、尾根道を下ること約３０分かかつてパルプ用の集材索道跡で小休止。ここは樹木もなく開けた丘で、左手眼下に前鬼の郷が見える。同じく５分ほど下った場所からも前鬼の郷・小仲坊が見える。

黒谷の頭への休場ノ尾の展望台（索道跡）

直ぐ下から小仲坊一望

ここから標高差約５００ｍ尾根を下る。地図で見ると等高線が狭く傾斜がきついことがわかる。そのうえ道は尾根に沿って直線に下る。所々にテープがあるが雑木の間をすり抜けるように進む。途中には索道のワイヤーが散乱し、植林保護の獣除け網も尾根道を遮る。滑らないように雑木を掴み獣除け網に足をつまずかないよう慎重に歩を進めるが、足にも疲労が溜まってブレーキが利きにくくなっている。

しばらくすると杉の植林があり、杉の根元から螺旋状にポリエチレン紐が巻かれている。山口さんは「熊に樹皮を食べられないようこういう対策をする」と教えられた。

最後に尾根道があまりにも急なので、トラバースし左側の尾根に取り付くが、下山ルートがなく元の尾根に戻る。林道のガードレールが見え安心する。間もなくゲート前の駐車場に戻る。

休場ノ尾の急斜面を下る

林道ゲート前に下山

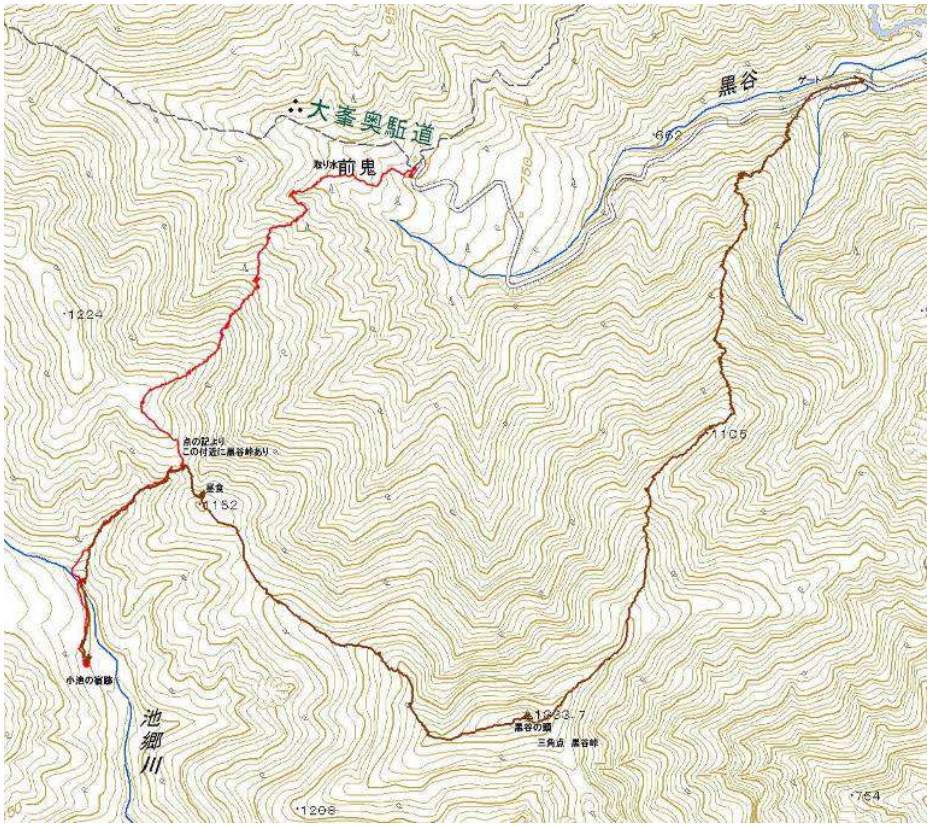
小仲坊で帰宅準備

今回のコースは時間がかかったが、距離的には長い距離ではないが急峻な上り下りがあって、一般向きではないけれども是非行ってみたいと思っていただけに、満足のできる山行であった。

全員無事下山。ゲートから車で前鬼小仲坊に戻り解散。

生熊さんから総時間７時間ということであったが、疲労感もさることながら、満足感や充実感の強い印象に残る山行であった。

行動タイム

新宮6:30→8:35池原スポーツ公園8:40→8:05前鬼林道ゲート8:15→8:25小仲坊8:40→取水口上の岩目印8:55→9:45**P1170m**10:05→10:13小池の宿跡分岐10:20→10:45小池の宿跡11:15→11:40小池の宿跡分岐→11:45**P1152m**(昼食)12:15→13:05黒岩の頭13:20→13:45展望台13:55→15:35前鬼林道ゲート15:43→15:50小仲坊16:00→池原スポーツ公園16:40→17:45新宮。

（記：濱野、写真：瀧本・川島）